



新たな仏花用規格による輪ギク 年3.5作体系を確立

— 短茎多収栽培により、収穫本数が50%向上します —

開発の背景・ニーズ

輪ギクでは、低価格で安定的に出荷される中国や東南アジアからの輸入が増え、その多くが仏花用花束に用いられています。一方で国内では、従来の切り花長90cmの出荷規格に合わせた生産を行っているため、仏花用花束のニーズへの対応が不十分でした。そこで、新たな仏花用途規格品（切り花長70cm、40cm脱葉）の効率生産・安定供給に向けて、現地実証ほ場での栽培体系の確立に取り組みました。

成果の内容

- 仏花用途規格品（切り花長70cm）は、従来規格品（切り花長90cm）より30%程度密植栽培でき、定植から収穫終了までの栽培期間を2週間程度少なくできました。
- 栽植密度を慣行栽培の1.3倍とし、栽培期間を1作平均95日以内とした結果、年間収穫本数を慣行栽培の150%以上にできる仏花用途規格品の年3.5作体系を実証することができました。



店頭に並ぶ花束

従来の出荷規格を
短く切り揃える

- ・加工の手間
- ・加工時のゴミ



従来の出荷規格
(長さ90cm、20cm脱葉)

実需者ニーズ
に対応

- ・一定の品質、仕様
- ・安定供給



短茎規格
(長さ70cm、40cm脱葉)

年3.5作体系における栽培の目安

年次	作型		品種	定植本数 (本/3.3㎡)	収量 (本/3.3㎡)	栽培期間
1 年次	1作目	6月開花	精の光彩	181	163	90
	2作目	9月開花	精の光彩	195	176	94
	3作目	1月開花	神馬	176	150	97
	4作目	5月開花	精の光彩	181	163	98
2 年次	5作目	8月開花	精の光彩	195	176	91
	6作目	11月開花	神馬	176	150	94
	7作目	3月開花	神馬	176	150	98

愛知県農業への貢献

新たな仏花用途規格を導入し、実需者ニーズに対応した輪ギクを効率生産・安定供給することで、農家所得の向上が期待できます。

【本研究は、農研機構 革新的技術開発・緊急展開事業「きく類生産・流通イノベーションによる国産シェア奪還」で実施した成果です】